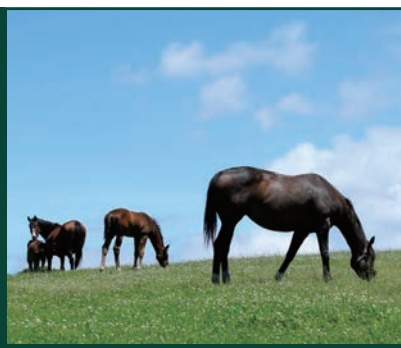


馬産地ライター村本浩平の 2021 スタリオンシリーズ競走種牡馬名鑑

Vol. 4 | 9.28[火] ▶ 11.4[木]開催分



9.30
[木]

マクフィ賞

【サンライズカップ(H1)】

僅か1世代の産駒しか残せなかった祖父Dubai Millennium。その貴重な血脈を世界へと広げていった父Dubawi。Dubawiの初年度産駒となるマクフィは、GI2000ギニーを優勝して、種牡馬となった父に最初のGIタイトルを授けると、その後もGIジャックルマロワ賞を優勝。いずれも芝のマイルGIと、父、そして祖父譲りと言える、スピード能力の高さを証明する形ともなった。引退後はイギリスとオーストラリアで繋養された後に、2017年シーズンから日本で繋養。初年度産駒たちは、昨年のファーストシーズンサイアーで3位となるような仕上がりの早さを見せていき、今年のGⅢアイビスサマーダッシュでは、産駒のオールアットワーズが優勝。JRA初の重賞タイトルを父に授けてみせた。

10.7
[木]

デクラレーションオブウォー賞

【瑞穂賞(H2)】

繋養先のアメリカだけでなく、芝適性の高さを武器として、ヨーロッパでもGI馬を次々と送り出したWar Front。その産駒の中でもいち早くヨーロッパの芝GI戦線を沸かせたのがデグラレーションオブウォーである。生涯最初で最後のダート戦となったブリーダーズカップクラシックでも3着に入った万能さは、種牡馬としても産駒に受け継がれたようであり、世界各国で誕生しているGI勝ち馬は芝やダートといった馬場だけでなく、芝1600Mから、その倍の距離となる芝3200Mでも勝利をあげている。2019年シーズンからは日本での繋養をスタート。その産駒実績もさることながら、自身の筋肉量の豊富な好馬体も評価される形で、繋養初年度には152頭、昨年も134頭の繁殖牝馬を集めている。

10.21
[木]

ディスクリートキャット賞

【ブロッサムカップ(H2)】

ディスクリートキャットがその名を世界に知らしめたのは、3歳時のUAEダービーである。日本から遠征してきたフラムドパシオン、この年のエクリプス賞年度代表馬に選出されたInvasorといった強豪を退けて、デビューからの3連勝での重賞初制覇。その後も連勝街道は留まることを知らず、5連勝で迎えた4歳時のGIシガーマイルでGI初制覇を果たした。引退後はアメリカで繋養され、芝とダートの双方でGI馬を送り出すなど、安定した産駒実績を残していく中、輸入馬のエアハリファがGⅢ根岸Sを優勝して話題を集めた。日本では2017年シーズンから繋養を開始しており、日本でも芝、ダートを問うことなく勝ち馬が誕生。昨年のファーストシーズンサイアーでは8位となっている。

11.3
[水・祝]

サンダースノー賞

【JBC2歳優駿(JpnⅢ)】

4歳時、5歳時と史上初となるGIDバイワールドC連覇もさることながら、2歳時にはGIクリテリウムアンテルナショナル。3歳時にもGIジャンプラ賞を優勝と、サンダースノーはデビュー以来、4年続けてGIレースを勝利してきた。その衰えぬ活力もさることながら、勝ち鞍も芝のマイルからダートの中距離までと、その活躍は多岐に及んでいる。しかも、3歳時のドバイワールドCではトラックレコードも樹立するなど、スピード能力の高さも証明する形となった。引退後の動向を世界が見守る中、2020シーズンから日本でスタッドイン。繋養初年度には152頭に配合を行う人気ぶりで、2023年にデビューを迎える初年度産駒たちも、現役時の父のように2歳戦から競馬場を沸かしてくれるに違いない。

11.4
[木]

ファインニードル賞

【道営スプリント(H1)】

輸入馬が重賞で活躍、または種牡馬としても成功を収めるものの、日本では僅か3世代の産駒しか残せなかったエンドスウィープ。その貴重なサイアーラインを、父のアドマイヤムーンから受け継いだのがファインニードルである。本格化した5歳時にはGⅢシルクロードSで重賞2勝目をあげると、続くGI高松宮記念でGI初制覇。秋にはGIスプリンターSも優勝して、春秋スプリントGI制覇と、史上初となる年間スプリント重賞4勝も成し遂げた。JRA賞最優秀短距離馬のタイトルも手にして、種牡馬入りを果たした2019年シーズンは105頭だった種付け頭数が、2020年シーズンには110頭に増加。仔出しの良さも評価されており、初年度産駒は国内の1歳馬市場でも好調な売れ行きを示している。

11.4
[木]

リオンディーズ賞

【道営記念(H1)】

初年度産駒、2年目産駒からクラシックホースを送り出すなど、次代のリーディングサイアー候補となってきたエピファネシア。その半弟となるリオンディーズも、兄とは違ったオールマイティな産駒実績で、確実にサイアーランキングをアップさせている。2歳時にはキャリア2戦目で臨んだGI朝日杯FSを優勝。ただ、3歳時になってからは勝ち鞍に恵まれず、その年の秋には脚部故障で引退を余儀なくされる。あまりにも早すぎる種牡馬入りとなったが、繋養初年度となった2017年シーズンには191頭の繁殖牝馬を集めるなど、人気種牡馬としての地位を確立していく。初年度産駒が3歳を迎えた今年、リプレーサがJpnⅡ兵庫ChSを優勝。ピンクカメハメハもサウジダービーを制して、父の名を世界に轟かせた。

今シーズンは特別競走17レースも
「スタリオンシリーズ競走」として開催!

●門別13回・ハッピースプリント賞 新種牡馬

●門別15回・ゴールドドリーム賞 新種牡馬

「スタリオンシリーズ競走」は、一般社団法人JBC協会(ジャパンブリーダーズカップ協会)が産地の支援を得て、優勝馬の馬主や生産者に種牡馬の翌年種付権利を副賞として贈呈する競走です。

※生産牧場が海外の場合は付与対象外となります。

